

山北宮農だより

令和7年3月

TEL: 75-0004



【温州みかん】

施肥 3月中下旬

- 特選みかん配合 655 160kg/10a 施肥後、軽く中耕を行いましょ。
 - ※特選みかん配合 655 には 微量元素 が含まれています。
 - 数年に一度は微量元素欠乏対策の為、特選みかん配合 655 を使用しましょ。

石灰資材の施用

○顆粒タイニー 又は 苦土タンカル 200kg/10a

石灰資材をここ数年施肥していない園(又は、1～2月に石灰資材を施用していない園)では、根の活動が低下し、養分の欠乏をひきおこす可能性があるため必ず施用し中耕しましょ。
尚、春肥とは最低でも2週間以上あけてください。

病害虫防除 3月中下旬

○かいよう病・そうか病対策

病斑のある枝葉は、新葉が出てくるときに感染源となるので、剪定時に取り除いて園内から持ち出し病原菌の密度を低くしましょ。

○かいよう病

コサイド 3000 1,000 倍 100g/100 ㍓ (クレフノン 200 倍 500g/水 100 ㍓ 加用)

※マシン油乳剤と混用散布は避け、近接散布は最低2週間以上あけましょ。

※温州みかん園に中晩柑類(ネーブル・レモン等)が混植されている場合には防除を必ず行いましょ。

※この時期に散布できなかった園は4月上中旬にコサイド 3000 2000 倍 50g/水 100 ㍓ (クレフノン 200 倍 500g/水 100 ㍓ 加用) 又はイデクリーン水和剤 500 倍 200g/100 ㍓ (クレフノン 200 倍 500g/水 100 ㍓ 加用) を散布しましょ。

【中晩柑】

不知火・はるみの剪定

主枝先端を明確にして、直径1cmぐらいのところを切り返し、予備枝(坊主枝)を作り、新梢を発生させ樹勢の維持を行います。翌年の結果母枝の確保のため、鉛筆位の太さの予備枝(坊主枝)を、亜主枝に対して1本設けましょ。

はるみは主枝先端部の切り返しを強めに行い、不知火はやや強めの切り返しにとどめる。はるみ程強く切り返す必要はない。

施肥 特選みかん配合 655 140kg/10a 施肥後に軽い中耕を行う。

病害虫防除 はるみ・レモン・ネーブル等は、かいよう病に罹病しやすいので、湘南ゴールドの項を参照に防除して下さい。

『デコポン』の名称について

デコポンの名称は、熊本県果実連の登録商標です。「不知火」の果実は糖酸度に関係なく個人販売、JA直売所において『デコポン』の名称で販売できません。

【湘南ゴールド】

選果

湘南ゴールド階級	2S	S	M	L	2L
横径 (mm)	40~45	46~50	51~55	56~61	62~67
温州みかん規格	4S	3S	2S	S	M

剪定

温州みかんと同じ開心自然型とします。しかし、温州みかん同様の剪定では強すぎるため、主枝や亜主枝を竹などで開張し、逆行枝、側枝の重なり枝の間引き剪定と下垂枝の切り返し程度に控え、樹冠内部に光が入る様にしましょ。結実し始めた樹は弱剪定で樹形が乱れているので、剪定量を増やし樹形を徐々に改善しましょ。

施肥

収穫後 ○かいよう病

3月中下旬 特選みかん配合 655 140kg/10a 施肥後に軽い中耕を行う。
I Cボルドー66D 100 倍 1,000ml/100 ㍓ (アピオンE 1,000 倍 100ml/100 ㍓ 加用) 又は ムッシュボルドーDF 1,000 倍 100g/100 ㍓ (クレフノン 200 倍 500g/100 ㍓ 加用) 発芽前であればアピオンE、クレフノンの加用はない。

※病斑のついた枝は剪定時に園外へ持ち出す。I Cボルドー66Dはマシン油との散布間隔は14日以上開ける。

【レモン】

整枝剪定

特に若木は樹勢が強く花芽が付きにくいので、樹勢が落ち着くまでの整枝剪定は、整枝を主体とし、徒長枝や混み合う枝の間引きを軽く行う程度とする。また、花芽が着く春枝の先端は切り返さない。枝は立ち性で太く放置すると高くなるので、枝を下げ誘引する。樹勢が落ち着いてきたら、徐々に剪定量を増やし、開心自然形にしていくが、樹勢が強いため、過度の剪定は徒長枝が多発し結果しなくなるので注意が必要です。樹幹内の枯れ枝は黒点病防除のため、常に除去するように心がける。

春肥施用 (3月中旬頃) 特選みかん配合 655 160kg/10a 施肥後、軽く中耕を行う。

【キウイフルーツ】

施肥 3月中旬

○キウイフルーツ配合 654 100kg/10a (新梢の充実と初期肥大促進を目的)

病害虫防除 3月上旬(剪定後)

○カイガラムシ類 スプレーオイル 100 倍 混用

アプロード水和剤 収穫前日 2回 1,000 倍 100g/水 100 ㍓

3月下旬(発芽前)

○キウイヒメヨコバイ アグロスリン乳剤(劇) 収穫7日前 3回 2,000 倍(50ml/水 100 ㍓)

○かいよう病 ICボルドー66D 収穫後～発芽前 50 倍 2 ㍓/水 100 ㍓

※キウイヒメヨコバイの多発園ではこの時期防除することにより発生を減らすことができます。

【うめ】

施肥 3月中旬 ○梅配合 80kg/10a (樹勢を安定させ着果後の肥大促進を目的)

病害虫防除 3月上旬～3月下旬

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 硬核期まで 50g/100畝
(クレフノン 200倍 500g/100畝加用)

※この時期のかいよう病防除は重要防除になります。必ず散布し、加工果実を減らしましょう。

3月中旬～下旬

○アブラムシ類 スミチオン乳剤 収穫14日前 2回 2,000倍 50ml/水100畝 又は
チェス顆粒水和剤 収穫21日前 2回 5,000倍 20g/水100畝

○灰色かび病・黒星病 バルクートフロアブル 収穫30日前 3回 2,000倍 50ml/水100畝

※灰色かび病の防除適期は落弁期(花びらの80%が散った時期)であるが品種によって開花時期が異なるので状態に合わせて防除する。

<黒星病の防除について>

黒星病の発生が非常に多くなっています! 4月上旬～中旬、下旬、5月上旬の春先の防除が有効になりますので徹底しましょう! 特に、5月上旬の防除をされていない園は、4月の防除に加え今年は必ず防除をするようにしましょう!

4月上旬 デランフロアブル 収穫14日前 2回 2000倍 50ml/水 100畝 又は
～中旬 ペンコゼブフロアブル 収穫前21日前 3回 1000倍 100ml/水 100畝

4月下旬 ストロビードライフフロアブル 収穫7日前 3回 3,000倍 33g/水100畝

5月上旬 スコア顆粒水和剤 収穫前日 3回 3,000倍 33g/水100畝

*2週間間隔で散布しましょう。

*前年の被害枝は切除しましょう。

【お茶】

施肥 2月下旬と3月中旬

○足柄茶配合 O33 を 2月下旬 3袋/10a と 3月中旬 2袋/10a の2回施肥

病害虫防除 3月上～中旬

○カンザワハダニ バロックフロアブル 摘採14日前 1回 3,000倍(33ml/水100畝)
又はダニゲッターフロアブル 摘採7日前 1回 2,000倍(50ml/水100畝)

○もち病 ドイツボルドーA 摘採14日前 500倍(200g/水100畝)

4月上中旬

○ツマグロアオカスミカメ多発園

キラップフロアブル 摘採7日前 1回 2,000倍(50ml/水100畝)

【ジャガイモ】

芽かき 地上部に出た芽が10芽程度に伸びたら、太い茎を2本残り他の茎を根元から取る。(特に春作)

追肥・土寄せ 芽かき後、NK化成 1kg/a を施し、株元に5芽程土寄せする。半月後にもう一度NK化成 2kg/a と土寄せを行う。

※ジャガイモは種イモより上にできるので、イモに日光が当たり緑化しないようにしましょう。

※ただし、生育初期から多くの土を寄せると新しいもの生育が遅れる。

【ダイコン】

春まき 3月中旬～4月下旬

畑の準備

苦土タンカルを土になじむよう、播種の半月以上前に畑全体に施し、根が伸びやすいよう、深く耕します。(40芽以上)

元肥は播種1週間前くらいに畑全体に施し、軽く土と混和する。

○燐加安 MMB262号 10kg/a

播種 点まき 畦間60芽・株間25芽 3粒

西湘はるみ米研究会 新規会員募集案内

平成30年度に立ち上げたこの研究会は、水稻「はるみ」を品質と食味にこだわって栽培し、研究会ブランド「さかわのめぐみ」の生産・販売に取り組んでいます。

活動内容:勉強会・圃場巡回・土壌診断・定期総会等

募集期間:令和7年2月25日(火)～3月24日(月)

申込方法:最寄りの支店又は営農経済センター(申込書は店舗に用意してあります。)

加入については以下の条件を満たす必要があります。

	必ず取り組む項目	3つ以上取り組む項目
必須条件	栽培面積おおむね10a(1反)以上	「土壌診断の実施」「稲わらのすきこみ」
	種子更新率100%	「堆肥の投入」「春まで2回以上耕耘」
選択条件	圃場ごとの生産履歴の提出・GAPの取り組み	「ケイ酸肥料施用」
	調製は1.8mm以上で行う	「化学肥料を県基準慣行の30%削減」
		「化学農薬を県基準慣行の30%削減」
		「地域の水利に合わせた適期中干し」
		「疎植栽培(50株/坪以下)」
		「元肥+追肥体系」

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。